

令和4年度事業報告

令和4年度の事業は、第19期奨学生に対し奨学金給付活動を行うとともに、電子通信工学の振興に資する活動では、新型コロナウイルス感染症の影響があり渡航助成事業1件、振興(イベント)助成事業2件及び調査・研究助成事業2件の助成となった。

1 奨学資金の給付事業(公1)

① 第19期奨学生に対し、四半期ごとに給付(合計4,140万円)

奨学金支給	支給日	奨学生数(名)	備考
第1四半期	R4.3.31	69	令和3年度予算で支出
第2四半期	R4.7.1	69	
第3四半期	R4.10.3	69	
第4四半期	R4.12.28	69	

令和5年3月31日で、第19期奨学生に対する給付活動は終了した。

(参考資料)

進路	19期生(名)	備考
進級・進学	40	
就職等	29	三菱自動車、東芝三菱電機産業システム、パナソニック、NEC、KDDI、ソフトバンク、楽天、ソニー、日新電気、電通国際情報サービス、村田製作所、TSMC、ダイハツ 他

② 「モノづくり」現場の見学会(交流懇談会)

和歌山アイコム株式会社有田工場の見学会を3年振りに令和4年9月9日(金)に開催した。有田工場では、会社概要の説明を受けた後、4班に分かれて工場内を見学し、「モノづくり」現場と時間管理の大切さなど、奨学生にとって貴重な体験を得ることとなった。工場までのバス車内及び昼食会場では、就職活動や各専門業界の動向、研究活動、趣味など多岐にわたって活発な交流懇談が行われた。

また、交流懇談会に参加して工場見学で得た感想や不参加者からの随想・研究論文を編集して、第19期奨学生69名分の文集を作成し、同奨学生及び財団関係者に配布した。

奨学生69名のうち参加者は24名

参加者	不参加	内免除者(前年度参加者)
24名	45名	0名

※ 新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し希望者のみとした。

③ 本財団の奨学生を終了された方々等との「きずな」づくり

第1期生から第19期生に暑中見舞い及び年賀葉書を送付した。

2 渡航助成事業（公2）

令和4年度は4件の申請を受理して、審査結果に基づき1件(大阪府立大学)の助成を行った。

申請受理件数	助成件数*	助成額	備考
4	1	10万円	

*渡航先はタイ（プーケット）

3 振興助成事業（公3）

助成申請のあった関西アマチュア無線フェスティバル実行委員会及び大阪市立大学に対して総額428,487円の支援助成を行った。

(参考資料)

助成名	助成額	備考
第26回関西アマチュア無線フェスティバル(KANHAM2022)	204,000円	関西アマチュア無線フェスティバル実行委員会
大阪市立大学電子通信作品デザインコンテスト	224,487円	大阪市立大学大学院 工学研究科

4 調査・研究助成事業（公4）

令和4年度調査・研究助成金交付対象者選考委員会で選考した2件に60万円の助成を行った。

(参考資料)

大学	研究テーマ	助成額
大阪大学大学院	超小型IoTデバイスに向けた再生可能エネルギー活用技術の研究	30万円
神戸大学大学院	口腔内環境管理のためのウェアラブルシステムに関する研究	30万円

5 その他

① 広報活動

財団の組織、財政、奨学生の募集、調査・研究助成対象者の募集、電子通信工学振興事業募集、活動報告等についてホームページを利用して広報を行った。

② 奨学生並びに調査・研究助成金交付対象者等の募集

募集要項を9月1日にホームページに掲載するとともに、大学及び工業高等専門学校(計29校)に郵送しさらなる周知・広報を行った。また、学校訪問(22校)及び電話連絡(7校)を実施し、奨学生、調査・研究助成金交付対象者の募集等に関する周知を行った。

③ 研修会の開催

令和4年10月14日(金)に役員等研修会として、「京都大学阿武山観測所」(大阪府高槻市)の見学を行った。地震学の萌芽期から最新の研究成果までの地震研究についてわかりやすく講義いただき、また、設立以来の超大型地震計から最新の地震計までを見学し、地震研究についての理解を深めることができた。

(参加者11名(評議員6名、理事1名、選考委員2名、事務局2名))

附属明細書

令和4年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項なし。